

浜益区介護サービス充足状況調査 結果報告書

1. 目的

第9期石狩介護保険計画策定に向け、浜益区での介護サービス等の利用及び充足状況や、将来の在宅サービスや介護施設入所の希望動向等の聞き取りを行い、今後、浜益区で生活していく上で、どのようなサービスが必要とされるかを把握するために実施した。

2. 対象と手法

浜益区において在宅生活を送っている、介護サービス利用者、介護サービス未利用の要介護認定者、および75～84歳の未認定者（30名抽出）を対象に、浜益支所市民福祉課、浜益地域包括支援センター職員が聞き取りによる調査を行った。

3. 調査期間

令和5年5月（最終回答6月9日までを含む）

4. 調査件数

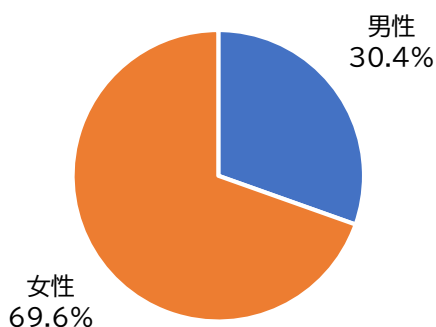
92件（対象数97件のうち、入院や不在等で調査ができなかった5件を除く）

	対象数	調査数	性別		事業 対象者	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
			男	女								
介護サービス利用者	52	49	13	36	0	18	13	10	3	3	2	
介護サービス未利用 の要介護認定者	15	14	6	8	0	6	3	4				1
75～84歳 (未認定者)	30	29	9	20								
計	97	92	28	64	0	24	16	14	3	3	2	1
構成比率(%)			30.4	69.6	0.0	26.1	17.4	15.2	3.3	3.3	2.2	1.1

5. 回答者の状況

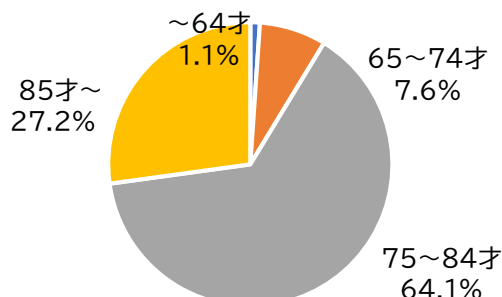
①. 性別

	人数	前回(R2)
1. 男性	28 (30.4%)	50 (39.7%)
2. 女性	64 (69.6%)	76 (60.3%)
計	92	126



②. 年齢

	人数	前回(R2)
1. ～64才	1 (1.1%)	0 (0.0%)
2. 65～74才	7 (7.6%)	9 (7.1%)
3. 75～84才	59 (64.1%)	24 (19.1%)
4. 85才～	25 (27.2%)	93 (73.8%)
計	92	126

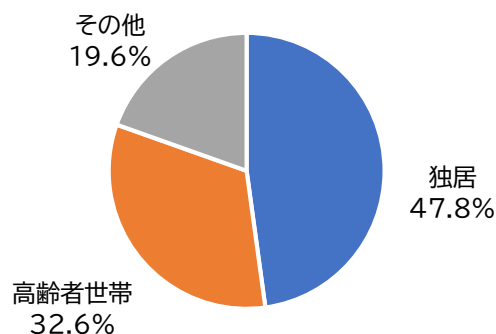


③. 居住地区

	人数	前回(R2)
1. 浜益	20 (21.7%)	20 (15.9%)
2. 群別	12 (13.0%)	14 (11.1%)
3. 幌	10 (10.9%)	19 (15.1%)
4. 床丹	0 (0.0%)	0 (0.0%)
5. 千代志別	0 (0.0%)	1 (0.8%)
6. 雄冬	0 (0.0%)	2 (1.6%)
7. 川下	16 (17.4%)	23 (18.3%)
8. 柏木	14 (15.2%)	14 (11.1%)
9. 実田	7 (7.6%)	13 (10.3%)
10. 御料地	1 (1.1%)	0 (0.0%)
11. 昆砂別	9 (9.8%)	18 (14.3%)
12. 送毛	2 (2.2%)	1 (0.8%)
13. 濃昼	1 (1.1%)	1 (0.8%)
計	92	126

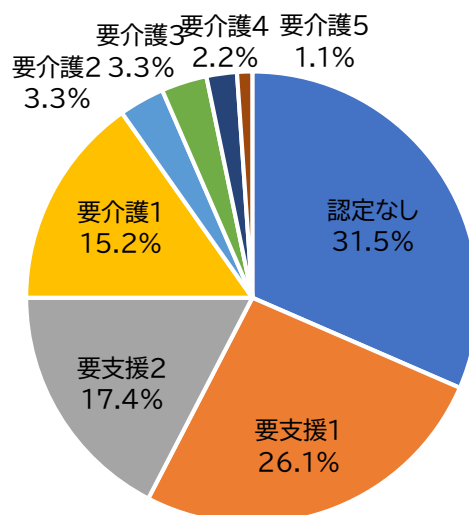
④. 世帯状況

	人数	前回(R2)
1. 独居	44 (47.8%)	46 (36.5%)
2. 高齢者世帯	30 (32.6%)	52 (41.3%)
3. その他	18 (19.6%)	28 (22.2%)
計	92	126



⑤. 介護度

	人数	前回(R2)
1. 認定なし	29 (31.5%)	57 (45.2%)
2. 事業対象者	0 (0.0%)	1 (0.8%)
3. 要支援1	24 (26.1%)	26 (20.6%)
4. 要支援2	16 (17.4%)	15 (11.9%)
5. 要介護1	14 (15.2%)	18 (14.3%)
6. 要介護2	3 (3.3%)	5 (4.0%)
7. 要介護3	3 (3.3%)	3 (2.4%)
8. 要介護4	2 (2.2%)	1 (0.8%)
9. 要介護5	1 (1.1%)	0 (0.0%)
計	92	126



6. 調査結果の概要

【介護サービス等の利用状況】（別紙・調査結果の詳細：1～3ページ）

問1. 現在利用中の介護保険サービス等についてお聞かせください。

<介護保険サービス>

- ・ほとんどのサービスで、充足度は「満足」と回答されていた。「通所介護」において、回数の増回を希望している方が2名いた。
- ・「訪問介護」は家事援助が多い現状だが、身体介護を含めた頻回なサービスを必要とする方も今後出てくることが予想される。利用者のニーズに合わせて対応できる体制を整えておく必要がある。
- ・「訪問看護」、「訪問リハビリ」の利用者が、前回調査よりも増加している。総合相談等で、「訪問看護」についての相談をうけることが多くあり、今後も利用希望の増加が見込まれるサービスであると考えられる。
- ・「通所介護（デイサービス）」は、利用者が3割以上と利用率の高いサービスである。通所型のサービスが他になく、利用者の状況や利用目的は多岐にわたっている。
- ・「短期入所（ショートステイ）」は、浜益区では通所系・訪問系いずれも土日サービス提供可能な事業所がなく、空白期間を補っているサービスでもあり今後も利用が見込まれる。

<医療・福祉サービス>

- ・ほとんどのサービスで、充足度は「満足」と回答されていた。「温泉入浴サービス」において、増回を希望している方が2名いた。

- ・国保診療所の医師による「訪問診療」は、調査数全体の13.0%で、うち介護保険サービス利用者が8割を占めた。公共交通等での受診が困難となった利用者にとって、欠かすことのできない社会資源である。国保診療所の「訪問看護」は、今回の調査では利用者がいなかったが、介護度の高い方や医療ニーズの高い方に対し、診療所と区外の医療機関や介護サービス事業所と連携しながら支援を行った実績があり、今後もその役割が期待される。
- ・「配食サービス」の利用者は、全員が介護保険サービス利用者で、サービスを複合的に利用している方が多かった。身体的な理由以外にも認知症の進行など、食事の自立は在宅生活の継続に大きく左右するため、今後必要な方へのアセスメント、サービス利用に繋げていく必要がある。
- ・「除雪サービス」は利用者の多い福祉サービスであり、今回の調査では85才以上の25.0%が利用していた。冬季間の高齢者の生活を支えるために欠かせないサービスであるが、除雪員の不足が大きな課題である。

【現在よりも介護が必要になった時の暮らしについて】（別紙・調査結果の詳細・4～8ページ）

問2. この先の生活のイメージをお聞かせください。

- ・7割以上（75.0%）の方が「自宅または浜益区内で暮らすだろう」と回答した。前回調査では69.8%と、約5%増えていた。馴染みの関係性があることや生まれ育った場所、愛着のある家や地域で生活を続けたいと考えている方が多かった。特に未認定者で、79.3%と前回よりも14%ほど上回った。前回調査に比べ、未認定者の年齢層が若いことも影響していると思われる。
- ・年齢層が若いほど、要介護状態や介護サービスの具体的なイメージを持っていない方が多いが、「できるだけ」、「ギリギリまで」「妻や夫が元気なうちは」浜益にいたい、という大まかな方向性や意向がうかがえるキーワードや「サービスを利用して自宅で」という記載が多かった。
- ・「浜益区外で暮らすだろう」と回答した方の半数以上は、「子の近くに行きたい・行かなければならない」という理由を挙げていた。また、専門医への通院、健康状態や暮らしなど、生活の不安が区外での暮らしの選択に繋がっている方もいた。

問3.（「自宅または浜益区内で暮らすだろう」を選択した人）どのような暮らしやサービスを考えますか？

- ・「自宅で夫婦または単身で暮らしたい」「家族のところで暮らしたい」と回答した人が55.1%と半数を超え、前回調査時よりも5%ほど上回った。「施設に入所して暮らしたい」と回答したのは31.9%だった。
- ・利用したいサービスは、「通所介護（デイサービス）」が最も多かった。「訪問介護」や「訪問看護」「訪問リハビリ」「訪問診療」も前回調査よりも利用したいと回答した人が増え、利用できるものはすべて、といった複合的な利用を希望する人が多かった。
- ・施設に入所して暮らしたいと回答した人が利用したい施設は「特養あいどまり」が68.2%と最も多く、そのうち介護サービス利用者は66.7%を占めた。「シルバーホーム」は「特養あいどまり」の次に多く、前回調査を10%上回った。「高齢者生活福祉センター」よりも希望が多い理由には、食事がついていることが大きいと思われる

問4.（「浜益区外で暮らすだろう」を選択した人）どのような暮らしやサービスを考えますか？

- ・施設に入所して暮らしたいと回答した人が69.6%と最も多かった。年齢別、世帯構成別にみても、すべてのカテゴリーにおいて多く、「一軒家またはアパート・マンションで暮らしたい」という方は少数（7.7%）だった。利用したい施設は、「サービス付き高齢者住宅」と回答した人が50.0%と最も多く、次に「その他」（37.5%）であった。「特養・グループホーム」は12.5%だった。

【調査を終えて】

- ・サービスは充足していると回答した方が多かったが、利用希望者の増加が見込まれるサービスがあること、種類や事業所が限られている現状があることから、充足度の低下を招かないよう今後もサービス提供体制の維持が必要である。
- ・浜益区にあるどの事業所も、職員確保の課題を常に抱えている。特に介護・福祉サービスに関しての担い手不足は待ったなしの状況が続いており、今後のサービス提供体制に影響を及ぼす可能性が高い。浜益区全体の地域課題として、この問題に取り組んでいく必要がある。
- ・今回の調査では7割以上の方が浜益区内での暮らしを望んでいた。介護・福祉・医療サービスが必要な時に利用できる体制の維持、また健康寿命を延ばす介護予防への取り組みもなお一層必要と考える。

別紙・浜益区介護サービス充足状況調査 調査結果の詳細

【介護サービス等の利用状況】

問1. 現在利用中の介護保険サービス等についてお聞かせください。

①. 訪問介護（ホームヘルプ）

	利用者数	週1回	週2回
要支援1	2	2	
要支援2	2	1	1
要介護1	3	1	2
要介護2			
要介護3			
要介護4			
計	7	4	3

・訪問介護の利用者は7名で、サービス利用者の14.0%が利用。サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

【前回調査(R2年)】

- ・利用者…6名(12.0%)
- ・充足度…全員「満足」と回答

②. 訪問看護

	利用者数	週1回	週2回	週3回
要支援1	3	3		
要支援2	2	1	1	
要介護1	2	1	1	
要介護2	1	1		
要介護3				
要介護4	1			1
計	9	6	2	1

・訪問看護の利用者は9名で、サービス利用者の18.0%が利用。サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

【前回調査(R2年)】

- ・利用者…2名(3.9%)
- ・充足度…1名が「不足」と回答

③. 訪問リハビリ

	利用者数	週1回	週2回
要支援1	3	2	1
要支援2	4	3	1
要介護1	3	1	2
要介護2	1	1	
要介護3	1		1
要介護4	1	1	
計	13	8	5

・訪問リハビリの利用者は13名で、サービス利用者の26.5%が利用。サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

【前回調査(R2年)】

- ・利用者…9名(17.6%)
- ・充足度…2名が「不足」と回答

・訪問介護は区内の「訪問介護事業所はまます」が、訪問看護、訪問リハビリについては、札幌にある「訪問看護・リハビリステーション・ソレイユ」がサービス提供をしている。

・訪問介護の利用回数は週1～2回の方が多く、内容は家事援助が多い。身体介助を含め頻回なサービスを必要とする方については、その都度相談を行っている。

・訪問看護は前回調査時よりも利用者が4倍ほど増加した。現在週1回の訪問が多いが、医療ニーズが高い方は、週2～週3回の利用をしている。病院の退院時連絡やご家族から在宅介護の相談を受ける際、訪問看護の有無や提供体制について相談をうけることが非常に多く、在宅生活の要となるサービスである。

・訪問リハビリは、利用者一人に対し週1～2回、リハ職が訪問しサービス提供を行っている。前回調査時よりも利用者が増加し、訪問看護とともに在宅生活を支える上で欠かせないサービスである。

④. 通所介護（デイサービス）

	利用者数	週1回	週2回	週3回	週5回
要支援1	6	6			
要支援2	2	2			
要介護1	4		3	1	
要介護2	3	2	1		
要介護3	3	1	2		
要介護4					
計	18	11	6	1	

通所介護の利用者は18名で、サービス利用者の36.7%が利用。

サービス充足度は、2名が「不足」と回答していた。

※不足と回答した人の理想の利用回数

・週1回→週2回…2名

【前回調査(R2年)】

- ・利用者…28名(54.9%)
- ・充足度…7名が「不足」と回答

・浜益区内で現在利用できる通所介護事業所は、送迎距離の問題もあり、区内の「はまますデイサービスセンター」のみである。利用者の身体状況や利用目的は多岐にわたり、自宅での入浴が難しくなった方や、認知症の方が多く利用している。新型コロナウイルスの流行の背景もあり、ここ数年利用者が減少していたが、唯一の通所型サービスであることでの役割は大きい。

⑤. 短期入所生活介護（ショートステイ）

	利用者数	月7日	月10日	月15日	その他
要支援1					
要支援2					
要介護1	2	1	1		
要介護2					
要介護3	2			1	1
要介護4					
計	4	1	1	1	※1 1

※1 不定期の利用

・ショートステイの利用者は4名で、サービス利用者の8.0%が利用。サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

【前回調査(R2年)】

・利用者…6名(12.0%)
・充足度…1名が「不足」と回答

・ショートステイは3名が区内の「特養あいどまり」、1名が区外の特養を利用していた。世帯状況をみると、「高齢者世帯」が2名、「独居」「その他の世帯」が1名であった。ショートステイを利用しながら、特養入所の待機をしていたり、介護が必要な度合いが高くなった時に欠かせないサービスとなっている。また、浜益区では通所系・訪問系いずれも、土日祝日にサービス提供可能な事業所がなく、空白期間を補っているサービスでもある。

⑥. 福祉用具貸与（複数回答）

	利用者数	車いす	特殊寝台	手すり	歩行器	歩行補助杖	スロープ	体位変換機
要支援1	9			8	4	1	1	
要支援2	8	1	1	5	2	1		
要介護1	4		1	4	2		1	
要介護2	2	1	1	3	1		1	
要介護3	3	1		2	2			
要介護4	2	2	1	1	2		1	1
計	28	5	4	23	13	2	4	1

福祉用具貸与の利用者は利用者は29名で、サービス利用者の59.0%が利用。

サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

【前回調査時(R2年)】 利用者32名(62.7%)、全員が「満足」と回答。

・もっとも利用率が高く、老朽化やバリアフリーを伴わない家屋が多い浜益区において、自宅で生活するためには福祉用具の利用が欠かせないという方が多い。

・手すりや歩行器を借りている方が多く、一人あたりの貸与数は「1品目」が13人(46.4%)、「2品目」が6人(21.4%)、「3品目以上」が9人(32.1%)だった。「3品目以上」は9名中、7名が要介護の方であり、介護度が高くなるにつれて、貸与の品目が多くなっている。

⑦. 訪問診療（国保診療所）

	利用者数
認定なし	
要支援1	2
要支援2	2
要介護1	3
要介護2	2
要介護3	1
要介護4	1
要介護5	1
計	12

国保診療所による訪問診療の利用者は12名で、調査数全体の13.0%だった。頻度はすべて月1回で、サービス充足度は全員が「満足」と回答していた。

【前回調査(R2年)】

・利用者…20名(15.9%)
・充足度…全員が「満足」と回答

・訪問診療利用者のうち、介護保険サービス利用者は10名で約8割を占める。
・公共交通の利用が、身体的な理由や病状により困難となった利用者にとって、訪問看護と共に在宅生活の支えとなっている。

⑧. 訪問看護（国保診療所）

今回の調査対象には、利用者がいなかった。

【前回調査(R2年)】

- ・利用者…2名(1.6%)
- ※週1回、2週間に1回利用
- ・充足度…全員が「満足」と回答

・今回調査では利用者がいなかったが、介護度の高い方や、医療ニーズの高い方への支援を行う際に、国保診療所の訪問看護を利用する場合がある。頻回なサービス提供の必要な方への支援にも、非常に大きな役割を果たしている。

⑨. 配食サービス

	利用者数	週2	週5
認定なし			
要支援1	1		1
要支援2	4		4
要介護1	2	1	1
要介護2			
要介護3			
要介護4			
計	7	1	6

配食サービスの利用者は7名で、調査数全体の7.6%だった。

サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

【前回調査(R2年)】

- ・利用者…10名(7.9%)
- ・充足度…4名が「不足」と回答 ※毎日を希望

・配食サービス利用者7名のうち、全員が介護サービスの利用者であった。また、複数のサービスを利用している方が多かった。

・利用動機としては、身体的な理由で調理動作が困難なだけでなく、認知症の進行も大きな要素である。食事の自立は在宅生活の継続に大きく左右するため、今後も必要なサービスと考える。

⑩. 除雪サービス

	利用者数
認定なし	
要支援1	6
要支援2	4
要介護1	1
要介護2	1
要介護3	1
要介護4	
計	13

除雪サービスの利用者は13名で、調査数全体の14.0%であった。

サービス充足度は、全員が「満足」と回答していた。

【前回調査(R2年)】

- ・利用者…29名(23.0%)
- ・充足度…全員が「満足」と回答

・浜益区における福祉サービスの中で、利用者が多いサービスである。除排雪の入る主要道路までの距離が離れている家屋も多く、冬期間の高齢者の生活を支えるためには欠かすことのできないサービスである。今回調査では85才以上の25.0%が利用していた。

⑪. 温泉入浴サービス

	利用者数
認定なし	
要支援1	4
要支援2	
要介護1	
要介護2	
要介護3	
要介護4	
計	4

温泉入浴サービスの利用者は4名で、調査数全体の4.4%だった。

サービス充足度は、2名が「不足」と回答していた。

※不足と回答した人の理想の利用回数

- ・週1回→週2回…2名

【前回調査(R2年)】

- ・利用者…8名(6.3%)
- ・充足度…2名が「不足」と回答 ※週1回→2回(2名)

・毎週月曜日、各地区から温泉までのバス送迎を行うサービスである。地区人口の減少が進み、それに伴いサービス利用者も年々減少している。

・現状のサービスは送迎のみであり、待合所までの移動やバスへの乗降、温泉内での移動が自立していることが必要なため介護の状況も軽度者が多い。